

【評価基準】A：目標を達成 B：7割以上達成 C：6割以上達成 D：6割未満の達成

4：そう思う 3：どちらかと言えばそう思う 2：どちらかと言えば思わない 1：思わない

項目	重点目標	評価指標	評価指標及び目標値	評定	考 察		学校による考察と改善策	改 善 策	評価資料		アンケート結果(%)				
					目 標 値	目 標 値			評 面	4	3	2	1		
ふるさとを愛する心	ふるさとのことを理解	ふるさととして学習素材とすることで、故郷の良さを伝えることができた。	児童・保護者・教職員・地域の方の平均肯定率が85%以上	A	・前期同様、四者ともに、肯定的な評価となっている。 ・学習発表会では、総合的な学習の時間・生活科を中心とした「ふるさと学習」の成果を発表した。子供たちの感想から、準備の過程での学習の振り返りや、他学年の発表を聞く中での気づきが多くのことが良い評価につながっている。 ・学習発表会での学びの発信により、保護者や地域の方々と学びを共有することもできた。		①学習が「ふるさと」について知り、「ふるさと」の良さを伝え合い、分かち合い、未来へとつなげていくためのものであることを、子どもたちにしっかりと意識づけさせる。 ②学習活動を通して個々が感じた良さを、授業の中で積極的に共有したり、その機会を確保したりすること、互いに学びを深めさせていく。	児童アンケート	A	64	29	7	0	93	
	地域の人々との交流	ふるさと学習や体験活動などに地域人材を活用することで、地域の人々との交流を大切にしている。		A	・前期同様、四者ともに、肯定的な評価となっている。 ・どの学年も、それぞれの年間指導計画に基づいて学習を進めることができた。それぞれの方々と交流を進めてきたが、後期は発表会に向けた学習が中心となり、活動に偏りが生じたという課題が見られる。 ・主体的な学習を進めるためには、単元の構想やねらいを明確にするとともに、教師の柔軟な対応が必要になってくる。		①6年間で発展的に学習できるよう、総合的な学習の時間や生活科等の全体計画や年間指導計画の見直しを図る。 ②地域人材という点では、大変充実している。今後は親しみを感ぜ、コミュニケーションを活性化するために、複数回又は定期的に同じ方と交流する等の学習計画を工夫していく。	児童アンケート	A	71	29	0	0	100	
	ふるさとを愛し、ふるさとのために役立とうとする心	ふるさとを愛し、ふるさとのために役立とうとする心が育っている。		A	・前期同様、四者ともに、肯定的な評価となっている。 ・道徳や総合的な学習の時間等での学習の様子から、ふるさとを大切に思う気持ちが育っている。 ・2学期は、学習発表会に向けた資料作成や発表練習が中心の学習となった。発表後も、お礼の手紙や感想等を送るなどして、感謝の気持ちや自分たちのふるさとへの思いを伝えることはできた。		①ふるさとへの良さを愛する気持ちを高めていく。ふるさと学習を通して感じる魅力や課題を明確にし、自分が役立つ方法や活躍場面を具体的に考え、実践化につなげていく。 ②交流や体験活動で得た学びを、発信するだけでなく地域貢献につながるよう、来年度に向けた指導計画の見直しを図る。	児童アンケート	A	79	21	0	0	100	
ふるさとを愛する心	ふるさとを愛し、ふるさとのために役立とうとする心	ふるさとを愛し、ふるさとのために役立とうとする心が育っている。		A	・前期同様、四者ともに、肯定的な評価となっている。 ・道徳や総合的な学習の時間等での学習の様子から、ふるさとを大切に思う気持ちが育っている。 ・2学期は、学習発表会に向けた資料作成や発表練習が中心の学習となった。発表後も、お礼の手紙や感想等を送るなどして、感謝の気持ちや自分たちのふるさとへの思いを伝えることはできた。		①ふるさとへの良さを愛する気持ちを高めていく。ふるさと学習を通して感じる魅力や課題を明確にし、自分が役立つ方法や活躍場面を具体的に考え、実践化につなげていく。 ②交流や体験活動で得た学びを、発信するだけでなく地域貢献につながるよう、来年度に向けた指導計画の見直しを図る。	児童アンケート	A	79	21	0	0	100	
	ふるさとを愛し、ふるさとのために役立とうとする心	ふるさとを愛し、ふるさとのために役立とうとする心が育っている。		A	・前期同様、四者ともに、肯定的な評価となっている。 ・道徳や総合的な学習の時間等での学習の様子から、ふるさとを大切に思う気持ちが育っている。 ・2学期は、学習発表会に向けた資料作成や発表練習が中心の学習となった。発表後も、お礼の手紙や感想等を送るなどして、感謝の気持ちや自分たちのふるさとへの思いを伝えることはできた。		①ふるさとへの良さを愛する気持ちを高めていく。ふるさと学習を通して感じる魅力や課題を明確にし、自分が役立つ方法や活躍場面を具体的に考え、実践化につなげていく。 ②交流や体験活動で得た学びを、発信するだけでなく地域貢献につながるよう、来年度に向けた指導計画の見直しを図る。	児童アンケート	A	79	21	0	0	100	
	ふるさとを愛し、ふるさとのために役立とうとする心	ふるさとを愛し、ふるさとのために役立とうとする心が育っている。		A	・前期同様、四者ともに、肯定的な評価となっている。 ・道徳や総合的な学習の時間等での学習の様子から、ふるさとを大切に思う気持ちが育っている。 ・2学期は、学習発表会に向けた資料作成や発表練習が中心の学習となった。発表後も、お礼の手紙や感想等を送るなどして、感謝の気持ちや自分たちのふるさとへの思いを伝えることはできた。		①ふるさとへの良さを愛する気持ちを高めていく。ふるさと学習を通して感じる魅力や課題を明確にし、自分が役立つ方法や活躍場面を具体的に考え、実践化につなげていく。 ②交流や体験活動で得た学びを、発信するだけでなく地域貢献につながるよう、来年度に向けた指導計画の見直しを図る。	児童アンケート	A	79	21	0	0	100	
ふるさとを愛する心									児童アンケート	A	71	29	0	0	100

学校運営協議会委員の所見

学校の対応

・ふるさと学習の推進について、学校の取組を評価いただいている。今後、地域の伝統文化や自然、産業などを教材として、地域の人々とのつながりを大切にしながら、より発展のあるさと学習を展開していきたい。
・次年度に向け、今年度の取組の検証・改善を行い、総合的な学習や生活科の年間活動計画の見直しを行っていく。
・学習発表会等、地域の方にも足を運んでいただくことで普段以上の力を提供することは期待している。多くの行事等に参加いただける機会を作り、大勢の前でも物おしせず発表できる子供たちを育成していく。

令和5年度 後期学校評価 学校評価報告書

鬼北町立愛治小学校 令和5年度2月

【評価基準】 A:目標を達成 B:7割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標 評価指標	評価 目標値	学校による考察と改善方策			評価資料	アンケート結果(%)					
				考 察	改 善 策	評 価		4	3	2	1		
互いを大切にする心	自他を尊重する心	縦割り活動など異学年集団の交流を通して、友達への理解を深め、仲良く過ごすことができていく。	A	・前期同様、四者ともに、肯定的な評価となつてい る。 ・集会活動や清掃活動を縦割り班として行つてい る。また、昼休み等の遊びを通して交流も盛んであ る。少ない人数ながら助け合ったり支え合ったり できている。 ・少人数のデメリットを補うためにも、授業や集会 の時間を生かした交流を積極的に進めていくことも 考えていく。	①集会活動や清掃活動等、縦割り班は重要である。児 童数は今後減少していくため、縦割り班とともに 全校でどのような取り組んでいくのか、異学年活動を 工夫して行かなければならない。 ②授業や集会の時間での交流を学習計画に位置付け て、ICTを活用して学びを配信したりするなどし て、人とのつながりを意識させる。	児童アンケート	A	71	29	0	100		
	気持ちのよい挨拶	返事やあいさつ、言葉遣いなどの基本的な生活習慣を身に付けることができる。	A	・前期同様、四者ともに、肯定的な評価となつてい る。 ・挨拶については、外来者には進んで気持ちのよい 挨拶ができている。校外での生活の中でも、自分か ら進んで挨拶ができるようにしていきたい。 ・言葉遣いについては、より近い人間関係の中で乱 れる傾向が見られるようである。より良い人間関係 を構築していくためにも、正しい言葉遣いを身に付 けさせたい。	①言葉遣いは、より良い人間関係を構築するために必 要であることを理解させるとともに、自分の言葉遣い に気付かせるため、機会を逃さず粘り強く指導してい く。 ②高学年の自覚を高めたり、リーダーの育成をしたり することで、挨拶をすることが当たり前の雰囲気づく りを行っていく。	児童アンケート	A	64	29	7	0	93	
	個に応じた指導	先生が困ったことや悩みななどを聞いてくれたりアドバイスしてくれたりすることから、楽しい学校生活を過ごすことができていく。	A	・前期同様、四者ともに、肯定的な評価となつてい る。 ・職員朝会や研修会等を活用し、情報交換を密に し、共通理解の下で指導や支援の体制ができてい る。 ・スクールソーシャルワーカーによる教育相談や担 任以外との教育相談を設けることで、多面的に児童 の様子を捉えることができている。	①教職員の共通理解の下で、児童一人一人見つけ、問 題発生の未然防止に努める。 ②一人一人の児童について、次学年に向けて本人の様 子の見取りや支援の引継ぎをしっかりと行い、次の学年 につなげるようにする。	児童アンケート	A	57	36	7	0	93	
						保護者アンケート	A	22	78	0	0	100	
						教職員アンケート	A	17	83	0	0	100	
					地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86		
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	86
							児童アンケート	A	57	36	7	0	93
							保護者アンケート	A	22	78	0	0	100
							教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
							地域有識者アンケート	A	71	14	14	0	

令和5年度 後期学校評価 学校評価報告書

鬼北町立愛治小学校 令和5年度2月

【評価基準】 A:目標を達成 B:7割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成 4:そう思う 3:どちらかと言えば思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標	評価値	評定	考 察		学校による考察と改善方策		改 善 策	評価資料	アンケート結果(%)							
					前期同様、四者ともに、肯定的な評価となっている。ICTを活用することで、個別学習や協働学習を進めることができた。また、子供たちの課題処理の力を補ったり、学習のねらいに必要な時間を生み出したことなどで、学習意欲を高めることにもつながっている。子供たちのICTスキルは向上してきている。今後活用が考えられるアプリを学習の中で活用すること、学習意欲の向上や学力向上につなげたい。	児童・保護者・教職員・地域の方の平均肯定率が85%以上	児童・保護者・教職員・地域の方の平均肯定率が85%以上	児童・保護者・教職員・地域の方の平均肯定率が85%以上			児童・保護者・教職員・地域の方の平均肯定率が85%以上	児童・保護者・教職員・地域の方の平均肯定率が85%以上	児童・保護者・教職員・地域の方の平均肯定率が85%以上	児童・保護者・教職員・地域の方の平均肯定率が85%以上	児童・保護者・教職員・地域の方の平均肯定率が85%以上	児童・保護者・教職員・地域の方の平均肯定率が85%以上		
主体的な学び	個別最適な学びと協働的な学びのベストミックスにより、学習意欲を高め、主体的に学習を進めることができる。			A							児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート 地域有識者アンケート	98	A	79	14	7	0	93
対話的な学び	学習形態の工夫により、自分の思いや考えを主体的に、より良く伝えることができる。			A						児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート 地域有識者アンケート	88	A	64	36	0	0	100	
深い学び	体験活動や協働的な学びにより、学習したことの理解を深め、様々な場面で活用することができる。			A						児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート 地域有識者アンケート	96	A	64	36	0	0	100	
学習習慣・読書習慣の確立	家庭でも学習や読書を進んで行い、学習したことをきちんと身に付けている。			A						児童アンケート 保護者アンケート 教職員アンケート 地域有識者アンケート	94	A	79	21	0	0	100	

学び続けるたくましさ

鬼北町立愛治小学校 令和5年度2月

【評価基準】A:目標を達成 B:7割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言うばそう思う 2:どちらかと言うば思わない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評価	学校による考察と改善方策			評価資料	アンケート結果(%)				
		評価指標	目標値		改善方策	評価	1		2	3	4		
資質・能力向上	現職教育・研修活動	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研修に励み、授業改善や指導に生かすことができた。	教 職 員 の 平 均 肯 定 率 が 8 5 % 以 上		・校内研修で、ICTの活用方法や授業改善の方向性などを協議したり、実践の共有を図ったりしながら取り組んでいる。 ・外部講師による公開授業と講話、愛媛新聞社によるeスタ研修など、研修機会の充実が図られた。	①今後もそれぞれが研修したことを全体へと広げ、教職員の学びの共有を図っていく。 ②各種研修会もコロナ禍前に戻ってきた。それらに参加し、先進的な取組を吸収していきたい。	教職員アンケート	A	0	100	0	0	100
	危機管理体制	危機管理意識を高く持ち、速やかな報告・連絡・相談を徹底することができた。			・前期同様、報告・連絡・相談が行われており、事故等の未然防止に努めることができている。 ・毎月の安全点検を確実に、安全で安心して学習できる環境整備を行うことができた。	①報告・連絡・相談はよくできている。個々の危機管理能力をより高めていく。 ②地域の方にも協力いただき、安心して学べる環境づくりにより今後も努力する。	教職員アンケート	A	100	0	0	0	100
	働き方改革	温もりと規律ある協働体制を整えることで、勤務時間の削減とともに教職員の資質・能力の向上や人材育成ができた。			・前期同様、協働体制は維持できている。大きな行事等は一息落したもので、退勤時間も少し改善が見られる。 ・大きな変革に対応できるよう、様々な技能や知識を積極的に獲得し、業務に生かしていきたい。	①一人で抱え込まず、声に出したり気付いたりしながら、支え合う職場、仲間でありたい。 ②ICTの活用による効率化を進めるとともに、教職員の声を吸い上げ、業務改善につなげる。	教職員アンケート	A	17	83	0	0	100
	情報公開・管理	学校等の取組を積極的に発信するとともに、個人情報の保護・管理の徹底に努めた。			・学校だよりやホームページの更新等、学校の取組を積極的に発信し、保護者や地域との学びの共有化を図ることができた。 ・著作権や肖像権に配慮しながら、文書作成、個人情報の保護・管理を行うことができていた。	①地域とともにある学校として、各種通信・ホームページで学校の取組を今後も積極的に発信する。 ②著作権や肖像権を意識し、データ保存されているものの必要性と適切な削除についても考えていく。	教職員アンケート	A	33	67	0	0	100
	資質向上	目標チャレンジを意識して活動に取り組んだ。			・前期よりも、意識を持って取り組んでいけると感じられる。 ・各自が進捗状況を把握し、残りの期間で達成に向けた努力を継続することで、資質向上に努める。	①各教職員の資質・能力の向上が学校の教育力につながっていくことを自覚し、今後も研修・自己研鑽に励む。 ②後期のまとめを行い、自己の課題を明確にし、次年度へつなげる。	教職員アンケート	B	17	67	17	0	83
					学校の対応				・これまでの教職員研修や自己研鑽の姿勢は評価いただいている。今後も、子供たちにより良い教育が提供できるよう、使命感を持って、研修・研鑽に努める。 ・教職員の健康で豊かな生活のためにも、より一層の働き方改革は必要である。業務削減や効率化を図るとともに、PTAや地域諸団体との連携をより一層進めていく。 ・今後の大きな社会の変化に対応できる力を育てるためにも、保護者や地域との連携は不可欠である。そのために、個人情報に配慮しながらも、積極的な情報発信を行っていく。				